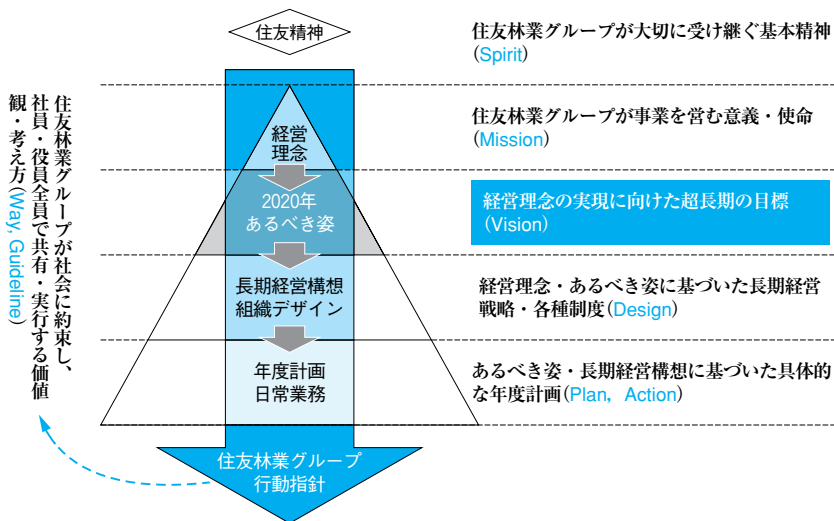


図 「チーム『2020』」で進めている理念体系の整理



全ての役員、社員が、もう一度自らの仕事を見つめ直すことが求められているのです。具体的な取り組みについては、これから皆さんと一緒に進めていきます」

このように語りかけるリーフレットを二〇〇五年十二月に作成し、住友林業グループの二〇二〇年のあるべき姿を考えるワークショップ

ップ「チーム『2020』」を二〇〇六年三月に立ち上げた。「チーム『2020』」は、専門部署や年齢の異なる五六名のメンバーからなり、CSR推進室が事務局を務める。また、必要に応じて関連部署の担当者にオブザーバーとして参加してもらおうポトムアップ型の活動である。

「私たちが実現したい未来を一緒に描いてみませんか？」

まず、社内報にて「私たちが実現したい未来を一緒に描いてみませんか？」と呼びかけを開始。メンバーを国内グループ全社から募り、多数の応募者の中から五六名の有志が選任された。二〇〇六年四月の全国ミーティングで取り組むべき優先課題の討議を行い、目標として経営理念と仕事をつなぐビジョン「あるべき姿」をまとめることになった。

この活動の中で多くの問題が議論された。たとえば「これからの企業はグループ全体、さらにサプライチェーンまで含めた事業方針に従業員の多様性尊重などの基本となるビジョンや指針を求められている。当社は持続可能性に対する負のインパクトが少ない、環境にやさしい企業としての評価が高いが、現在の事業ドメインとの関連性が不明確」など。こうして検討を重ねる中で、会社の理念体

系を整理する必要が出てきた。当社は、住友精神を軸に、経営理念や倫理憲章などを社内外に明示しているが、統一した体系として整理されておらず、事業活動・判断の拠り所として活用されていないとの問題が確認された。

「チーム『2020』」が目指すもの

単なる「仲良しクラブ」や「言葉あそび」に終わらせないために経営層も巻き込み、活動の成果をグループ全体の姿勢として内外に宣言、そして具体的な仕事や行動に結びつけることを目的にしている。現在検討を進めている①住友林業グループが目指す「あるべき姿」②社員・役員が共有する共通の価値観「行動指針」は、社内社外に広く意見を求め、実際に役立つグループ共通のビジョンと行動指針の策定を最終目標としている。

「チーム『2020』」の活動は一年で終了するが、その後は五六名のエネルギーが現場に伝わり、企業風土に新風を巻き起こす新たな活動につながっていききたい。CSRという言葉にはこだわらず、本業を通じて社会とともに持続的に発展し続けるための取り組み、その社員像や考え方の浸透を継続的にを行い、社員一人一人が「住友林業人」としてお互いを高めたいける職場環境づくりを目指していきたい。

CSRを担うのは、 現場そして一人一人の社員

「チーム2020」の目指すもの

住友林業総務部CSR推進室長

新井紀範
あらい ただのり



CSRという言葉は
理解されているのか

住友林業は三〇〇年を超える伝統に培われた住友の事業精神を礎に、「木を活かし、生活に関するあらゆるサービスを通じて、豊かな社会の実現に貢献する」ことを経営理念に掲げている。今日のように環境破壊やCO₂問題が注目される一〇〇年も昔から、銅山掘削で荒廃した山々を緑の森に復元する「大造林計画」を実行した歴史、そしてその山林を継承していることは当社の大きな誇りである。

近年、企業に対する社会の目は厳しく、リスクや責任の範囲は急速に拡大し、透明性を高めていくことが求められている。CSRと一言でいっても、海外を含め連結対象会社四三社、従業員一万二〇〇〇人がグローバルに事業展開している現在、社会から信頼され続ける企業としてその全員が共通意識を持ち仕

事を進めていくことは決して容易ではない。

ここで、当社グループの一人一人が日常業務を行っていく上で、常に企業を取り巻くさまざまな環境の変化を敏感に察知し、経営理念に照らし合わせながら社会の期待に応えていくことが当社のCSRであり、その浸透を目的に住友林業CSR推進室は、二〇〇五年四月に総務部内に設立された。

その後半年を振り返った時、断片的にはそれなりの成果もあったが、多くの社員からは「CSRは推進室が行う仕事」とみられており、加えてCSRを語る際に、サステナビリティ、ダイバー

住友林業「環境・社会報告書2006」

P 29 第三者意見より引用

多くの企業で「創業の精神はCSRそのもので、わが社のDNAとなっている」というようなことがいわれますが、えてしてそうした企業で不祥事が発生するのは、言葉に酔ってしまい具体的な取り組みに結びついていないからです。

シティー、SRI(社会的責任投資)等の専門的な横文字が多く出てくることで、現場視点では仕事との関連性がなく、本が行う遠い存在となっていた。

住友林業が考える社会的責任とは

この反省を踏まえ、できるだけわかりやすい言葉で、次のようにCSRを語ることにした。「最近よくCSR(企業の社会的責任)という言葉を目にします。では企業の社会的責任とは一体何でしょうか。その答えの一つは、当社らしい事業活動を通して社会の期待や要請に応えること。何か特別な活動を行うことなく、私たち一人一人が社会的課題を意識しながら、日常の仕事に取り組むことです。企業に寄せられる期待は年々大きくなっていきます。その期待に応えることが、企業として存続、発展するための条件です。社会から信頼される会社であるために、そして何よりもみなさん自身が誇りを持てる会社であるために、